

令和2年度香川県中山間地域等直接支払制度推進委員会 意見内容及び回答

当初、6月11日（木）に開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染防止のため委員会の開催を中止し、推進委員あてに資料を送付し、書面による意見聴取を行った。

1 意見聴取の項目

- (1) 令和元年度中山間地域等直接支払制度の実績について
- (2) 第5期対策の概要について
- (3) 第5期対策における知事特認地域について
- (4) 棚田地域振興活動加算の措置に係る定量的目標について
- (5) 令和2年度における制度の推進について

2 配付資料

- (1) 香川県中山間地域等直接支払制度推進委員会設置要領、委員名簿
- (2) 上記意見聴取の項目(1)～(5)に関する資料
- (3) 農林水産省公表パンフレット「中山間地域等直接支払制度」

3 意見聴取の概要

- (1) 令和元年度中山間地域等直接支払制度の実績について
令和元年度の協定面積は2,631haとなり、平成30年度より11ha増加した。
- (2) 第5期対策の概要について
今年度から新たに第5期対策（令和2～6年度）が始まり、第4期対策（平成27～令和元年度）からの主な変更点は下記の4点である。
 - ① 体制整備単価（10割単価）の要件を「集落戦略の作成」に一本化
 - ② 棚田地域振興法への対応
 - ③ 農業生産活動を継続する前向きな取組を支援するため、加算措置を拡充・新設
 - ④ 遡及返還の対象農用地の見直し
- (3) 第5期対策における知事特認地域について
知事特認地域（本制度の対象地域のうち知事が指定する地域）の基準は第4期対策から変更なし。なお、平成29年12月に農林統計上の中間地域が見直され、三豊市の神田地区が第5期対策から交付金の対象地域として追加される。
- (4) 棚田地域振興活動加算の措置に係る定量的目標について
当加算に取組む場合、定量的目標の設定にあたっては、モラルハザードとならないように、国の通知により第三者委員会で意見を聴取することと定められていることから、取組予定の協定における定量的目標の妥当性を確認する。
- (5) 令和2年度における制度の推進について
今年度は第5期対策への切り替わりの年であるため、説明会、リーフレット等での制度の周知を行うとともに、大きな課題となっている「人材の確保」を支援するため、昨年度から実施している県単補助事業の活用促進を図る。

4 主な意見及び事務局の回答

○ 令和元年度中山間地域等直接支払制度の実績

委員

- ・「体制整備単価協定」の比率が特に高い市町がある。その要因について分析しては如何か。
⇒ 市町の推進方策の違いによるものが大きいと思われ、市町からの働きかけや支援があれば積極的に体制整備単価に取り組む協定が増えると考えられることから、今後、市町の状況を聞き取り、体制整備単価への誘導を推進してまいりたい。

- ・集落協定の取組状況（P20）として、ため池の維持管理は行われていないだろうか。防災上の観点から、ため池の適正な維持管理が求められている一方、日常的な管理が行き届かない個人ため池も散見される。小叢地区では、本制度を活用してため池の維持管理を集落ぐるみで行っている。こうした事例は他にないだろうか。本制度が小規模ため池の防災・減災力を高めることに有効であるということが明らかになれば、本制度の推進に寄与するだろう。
⇒ 実際にこの交付金をため池の修繕経費に充てている協定はあるが、事例数としては多くないのが現状である。ため池は、農用地（特に水田）や水路とともに維持されるべきものであることから、本制度による維持管理も推進してまいりたい。

- ・集落協定の取組状況（P23）の「その他将来に向けた適正な農用地保全」は具体的に何を指すのか。
⇒ 鳥獣被害防止に向けた防護柵の設置や林地の下草刈りなどが多いと聞いている。

○ 第5期対策の概要について

委員

- 体制整備単価の要件を、ABC要件から「集落戦略の作成」に一本化するという全国的な方針は、交付を申請される側の負担を軽減することになるため、ぜひ香川県でも要件のハードルを下げる方向で進めてもらいたい。1点気になったところは、集落戦略の様式で、○を付けるのが基本となっているが、記入すべき項目が多い上に、使われている用語が難解で、高齢の方が記入するにはやや煩雑なのではないかと感じた。集落戦略を作成してもらう際には、県からかみ砕いた説明をするなど、工夫した支援をお願いしたい。
- ⇒ 第4期までの対策と比較すると、集落戦略の作成は取り組みやすくなっており、集落の将来像を検討することも重要であることから、体制整備単価への取組を推進してまいりたい。
- また、市町単位で開催する協定参加者向け説明会では、平易な表現での説明に努めるように、市町担当者と協議したい。

委員

「遡及返還」制度が見直されたことは意義深い。協定数の増加、対象農用地の拡大に寄与するだろう。

⇒ 農業者にとっての心理的負担はかなり軽減されるものとする。この変更点を、今後の制度の活用推進の一助としたい。

○ 棚田地域振興活動加算の措置に係る定量的目標について

委員

昨今は企業でも役所でも「定量的目標」の設定を求められるケースが多くなっている。ただ、あまりにその「定量的目標」のハードルが高すぎると、申請する側の意欲をそぐことにつながりかねないのでは、と危惧する。小蓑集落の取組の概要の「みんなで助け合って地域の農業を守っていく」「近くに新たな仕事場ができたことで、生きがいになっている人もいます」といった文言が心に響いた。こういった人々の思いを尊重し、結実させるためにも、「定量的目標」のハードルが高くなりすぎないことを望む。「定量的目標」が現場に過度の負担とならないよう配慮願いたい。

⇒ 定量的目標が達成できなかった場合は、当加算措置分の交付金の遡及返還が求められることとなるため、小蓑協定の代表者には無理のない目標を設定するよう、三木町を通じて指導し、検討していただいているところである。協定代表者からは、今回設定した目標は十分に実現可能な数字と聞いており、県としても随時状況の把握に努めてまいりたい。

委員

・小蓑協定の加算への取組について

ア「棚田等の保全に関する目標」の「防除用ドローンを導入して防除面積を●haとする」ことに関して、農薬散布については、周囲への十分な配慮が必要と感じる。小蓑米については、生産増よりも小蓑の価値を活かした売り込みを展開してほしい。

⇒ ドローンを使用した適正な防除方法については、農業改良普及センター等を通じて今後指導してまいりたい。この目標「令和6年度までに棚田米ブランド化の推進に努め、販売金額を●●●円から●●●円に増加させる」については、小蓑米の単価を上げることで達成を目指すものであり、現在特別栽培米にも取り組んでいることから、より一層の小蓑米の価値向上を図っていくものと考えられる。

○ 令和2年度における制度の推進について

委員

「農村地域を守る人材の確保が急務」という現状は、ここ何年もの課題なのではないかと推察するが、外国人実習生の受入に向けて、さらに何かできることはないか。国内の移住者受入を目指すだけでは難しい局面になっているのではないかと考える。こうした中、香川県では、コンビニや企業での就職のため、多くの方が外国から来られ、日本語学校で学んでいるのを見かける。そういう方々の中には農業に興味がある方がいるかもしれない。県として、金銭的な補助に留まらず、例えば日本語学校で外国人実習生の受け入れ呼びかけや、「マッチング」の橋渡しをしてもらうことはできないか。

⇒ 現在、大規模な農業生産法人を中心に外国人を労働者として雇うケースが増えている。農山村地域においても、単なる労働者としてではなく、地域の維持・発展に寄与する移住者としての受け入れも考える必要が出てくることが予想されるため、関係課と情報共有を図りながら対策を検討してまいりたい。

委員

集落として組織的に活動を行う従来の方法論には限界がある中、個別協定の可能性を追求することも重要であろう。また、実現可能性は低いかもしれないが、「集落連携」や「小規模・高齢化集落支援」にも期待したい。

⇒ 個別協定の場合は原則引受農地のみしか交付金の対象とならないが、引受面積が一定以上になれば、集落協定同様、自作地も交付金の対象とすることができる。

農業生産活動を維持するために、現在は集落協定での取組を求めているが、今後、集落での助け合いが困難になり、個人の農業者に頼らざるを得なくなる状況となった場合には、個別協定への取組も推進する必要も出てくるものと考えている。

委員

現状の新型コロナウイルスの影響を考慮して、地方の公共インフラの遅れに対処することが急務。点在する山間部での方策を確実に進める政策を考えるべき。

また、人材育成は他人事ではできない。希望と志を結びつけるために行政がどのような支援をするべきか、県だけにとどまらず国家として考えるべきである。

「点」が孤立しない作戦は何か。人のつながりは血→縁へ動くので、縁の構築への支援が必要だと考える。

⇒ 地方の公共インフラの遅れについては、整備の必要性も含めて地域の実情に応じた対応ができるように、当課での取組みも踏まえ、検討してまいりたい。

また、山間部で人材が不足していることを受け、担い手確保や移住者の受け入れ促進を目的として、地域の人々の呼び込みイベントに係る経費、後継者が使用する農業機械の購入や移住者用住居の改修等に活用できる県単補助事業「中山間地域等人材緊急確保事業」を設けており、これを足掛かりの1つとしてもらいたいと考えている。